

市民説明会『水道料金・下水道使用料の値上げ改定について』質疑応答

○場所：地域共生センター「まるぷらっと」西館（令和6年12月6・7日）

No.	意見・質問	回答
1	・南部地域・北部地域で検針の時期が異なるとのことだが、どの地域でわかれているのか。	・検針については、曾根・岡町辺りを境界として、北部・南部を分けている。1日あたりで検針できる件数を考慮して、検針ブロックを設定している。
2	・20年前に水道料金の値上げをしたとのことであるが、老朽化する施設を更新するための工事費用について、20年前からの推移はどうなっているか。 ・工事の設定はどのようにしているのか。 ・水道事業にどのくらい税金が入っているか。	・更新の状況にもよるが、20年前の工事費用は、年間6億円程度。近年では、26億円程度となっている。材料・施工費が年々上昇している。 ・計画的に工事を行っている。5～7年の期間で計画をたて、更新需要を考えながら、平準化して工事を進めている。 ・水道事業は、地方公営企業法の適用を受けるため、独立採算制を原則としている。事業運営は、水道料金で賄うことを基本としているが、消火栓の設置、維持管理の費用などは、税金で賄われている。
3	・他市の改定の取り組み状況はどうか。豊中市は20年ぶりの値上げだが、近隣市についても知りたい。	・他市においても、本市と同様に、経営状況は厳しい状況にあり、改定を検討しているところもある。近隣市においても、値上げ改定しているところはある。
4	・地方公営企業法を適用している限り、収益の増減が料金・使用料に反映させることになると思うが、国の補助があれば、料金・使用料への影響がなくなるのではないか。	・地方公営企業法の適用を受けていることから、収益の増減が料金・使用料に影響を与えることになる。国に対しては、事業費における補助の拡充を要望しているところである。
5	・豊中市の水道管の材質は何か。また、耐用年数は。	・本市の大部分の水道管は、ダクタイル鋳鉄製を使用している。近年では、耐用年数が約100年で、耐震性を有しているダクタイル鋳鉄管を使用している。口径が50ミリメートルの場合は、配水用ポリエチレン管を使用しており、耐用年数は約80年で、耐震性を有している。
6	・マンホール蓋を開けて、作業をしているところを見たことがあるが、その作業内容は何か。	・下水道管の点検・清掃や老朽化した下水道管の更生工事などを行っている。
7	・雨水と汚水が一緒の地域に住んでいるが、この分離は難しいか。	・雨水と汚水が一緒に流れる合流式から分流式にすることは、構造面と費用面から難しい。
8	・値上げはある程度しかたのない話だと思う。全国的に水質が問題に	・水質検査については、毎日検査と毎月検査があり、計画的に検査をし、

	なっている。水質検査はしているか。PFOS、PFOA など。	安全性を確認している。昨今、問題になっている有機フッ素化合物の PFOS、PFOA については 3 か月に 1 回検査をし、自己水、受水（企業団水）ともに、安全性の確認を行っている。水質検査の結果は、局ホームページで公表している。また、受水については、大阪広域水道企業団のホームページで公表している。
9	・改定内容について、使用水量が多くなるに従って、改定額が低くなり、1,001 立方メートルの使用水量を超えた場合、改定額が水道も下水道も +0 円となっているが、これについて詳しく教えてほしい また、用途として一般用と書いてあるが、この中には事業者も入っているということか。	・本市では、使用水量が増えるほど単価が高くなる逡増制という料金体系をとっている。この体系は、全国的にも採用されており、一般家庭への負担の配慮と、水使用の抑制などの考えから導入されているもの。しかし、近年、小口使用者の世帯数の増加や、大口使用者の水使用の減少など、水需要の減少と構造の変化に伴う料金体系の見直しが必要になっていた。また、国からもこの料金体系について見直しを行っていくように示されており、この度の水道料金改定は、これらを踏まえたものとなっている。下水道使用料においても同様となる。 なお、一般用の用途に事業者も位置づけている。
10	・現在、他市では水道事業を企業に委託するなどの動きがあり、水質が悪くなったり料金がものすごく高くなったり、海外では一度委託しても、公共に戻しているということがあるようだ。豊中でもそのような可能性はあるか。	・本市は、公設公営で運営していく考えだが、スケールメリットを生かした広域連携となる大阪広域水道企業団への事業統合については、選択肢の一つと考えている。現在、府内の 3 分の 1 くらいの自治体が事業統合しているが、現時点で本市としては、直ちに統合することは考えていない。

○場所：庄内コラボセンター「ショコラ」(令和6年12月8・9日)

No.	意見・質問	局回答
1	・増収の見込みが合計で約13億8,000万円(1年あたり)で、運営に税金は使っていない中で、この収益で、利益を確保できるのか。 ・今後の借金の状況については。 ・民営化する予定などはないのか。	・上下水道事業の工事費用は、多くを企業債という借金で賄っている。企業債の利息の状況にも注視する必要があるが、利益を確保できる見込みである。 ・今後も企業債を活用した事業運営になる。水需要の減少は続いており、事業運営の根幹となる料金・使用料の収入も厳しい状況が予想される。一方、安心安全に上下水道を運営していくためには、工事もとぎれることなく進めていかなければならない。このような状況の中、令和14年度以降に、赤字になることを見込んでいる。料金・使用料改定を必ずしもするわけではないが、3～5年周期での経営状況を検証する中で、借入状況についても注視していく必要がある。 ・本市は、公設公営で運営していく考えだが、スケールメリットを生かした広域連携となる大阪広域水道企業団への事業統合については、選択肢の一つと考えている。現在、府内の3分の1くらいの自治体が事業統合しているが、現時点で本市としては、直ちに統合することは考えていない。
2	・全国的に有機フッ素化合物などにより、水が問題になっていると聞いた。豊中市の水は安全できれいな水か。	・水質検査を計画的に行い水道水の安全性を確認している。昨今、問題になっている有機フッ素化合物のPFOS、PFOAについては3か月に1回検査をし、自己水、受水(企業団水)ともに、安全性の確認を行っている。水質検査の結果は、局ホームページで公表している。また、受水については、大阪広域水道企業団のホームページで公表している。
3	・今回料金改定の説明があったが、今後も値上げ改定の可能性はあるか。	・今回の水道料金改定は、算定期間を令和6年度から令和9年度までとして計算をしている。改定後も令和14年度頃に再び赤字になる見込み。今後も、人口の減少や節水機器の更なる普及などによる料金の収入の減少、材料費や人件費の上昇による工事費の増加などにより再び経営状況の悪化を見込んでいる。今後、3～5年周期で経営状況を検証する中で、改定の必要性を判断していかなければならないと考えている。

4	・ 加入金制度の廃止について教えてほしい。	・ 昭和の高度経済成長期に豊中市の人口が急増し、水道施設を拡張してきた。加入金制度は、その拡張に要する費用を料金で賄うと、料金が大幅に上昇するため、新たに水道を使用する方に、一定額を負担してもらう制度になる。しかし現在、人口が減る中で、水道を拡張していく時代は終わり、維持管理の時代に移行している。本市の加入金制度については、その役割を終えたものとして廃止するものである。
5	・ よくニュースで問題になっている PFOS、PFOA について、豊中市の上下水道局では検査はされているか。その結果を教えていただきたい。	・ 水質検査を、計画的に行い水道水の安全性を確認している。昨今、問題になっている有機フッ素化合物の PFOS、PFOA については 3 か月に 1 回検査をし、自己水、受水（企業団水）ともに、安全性の確認を行っている。水質検査の結果は、局ホームページで公表している。また、受水については、大阪広域水道企業団のホームページで公表している。
6	・ 改めてライフラインの重要性を認識した。今回値上げされた場合、府内の他市と比べると料金・使用料の高さの順位はどのようになるのか。 ・ 他市と比べて安いほうには入ると思うが、一番大事なのは安心安全であることだと思う。しっかりと財源を確保して進めてもらいたい。	・ 月 10 立方メートルを使用した場合、水道料金、下水道使用料を合算したものを比較すると、改定前は府内で一番安い金額であるが、改定後は安い方から 33 市中 16 番になる。月 20 立方メートルを使用した場合、改定前は 2 番目に安いですが、改定後は安いほうから 33 市中 7 番目になる。ただし、他市も改定を検討していることから順位は変動するものと理解いただきたい。

○場所：千里公民館（令和 6 年 12 月 15・16 日）

No.	意見・質問	局回答
1	・偶数月検針と奇数月検針によって、新料金を適用する時期が異なってくるということであるが、偶数月検針であれば 4 月から新料金が適用されるということで、その辺の不公平感が担保されているのか疑問に思った。	・北部、南部地域によって適用時期が異なるが、改定時期や増減もそれぞれで異なるため、長期的に不公平はないものと考えている。
2	・今回の料金改定は令和 6 年度から令和 9 年度までの 4 年間の料金であり、令和 10 年度以降はまた、値上げするかどうかを検討するというスケジュールなのか。	・今回の料金改定は、算定期間を令和 6 年度から令和 9 年度までとして計算をしている。改定後も令和 14 年度頃に再び赤字になる見込み。今後も、人口の減少や節水機器のさらなる普及などによる料金の収入の減少、また、材料費や人件費の上昇による工事費の増加などにより再び経営状況の悪化を見込んでいる。今後、3～5 年周期で経営状況を検証する中で、改定の必要性を判断していかなければならないと考えている。
3	・過去に実施した市民説明会の質疑応答の議事録で大阪広域水道企業団との経営統合を今のところは、考えていないということであったが、府内の中核市も経営統合するところもある。今もその考えは変わっていないか。	・大阪広域水道企業団への事業統合については、選択肢の一つと考えているが、現時点では、直ちに統合することは考えていない。
4	・これから更新していく水道管は耐久性、耐震性に優れていることはわかるが、今、埋まっている約 40 年以上経過する管について、なぜ急いで更新しなくてよいのか。	・水道管の法定耐用年数は 40 年とされているが、これまでの実績から直ちに更新する必要はない。昭和 50 年代から昭和 60 年代までに設置した水道管は、内面処理が施されていることから 80 年間使用できるものと見込んでいる。このように、本市は、水道管の種類ごとに耐用年数を設定している。現在使用している水道管は、100 年間使用できるもので、更にその外面にビニールを巻くことで 120 年間使用できるものとして設定している。
5	・検針は人の手（検針員）でやっているのか。自動検針か。	・本市では、現状、検針員が検針している。自動検針については、スマートメーターを使い実証実験中である。
6	・他の市町村では、スマートメーターはどのくらい導入されているのか。	・政令指定都市などでは、順次導入が進んでいる。
7	・経費削減について努力いただきたい。他事業者の取り組みを参考	・貴重な意見として受け止める。

	にしていきたい。	
8	・工事費の高騰はよくわかるが、水道施設の老朽化による工事費用の増加分約 18 億 7,600 万円と、水道料金増収分約 7 億 1,000 万円を比べると、この増収分では不足するように見えるが、その理由を確認したい。 ・これから工事費が上がり業務が増え、今後それに見合った職員の確保をしないといけないと思う。必要な人材の確保をお願いしたい。	・工事費用は、水道で約 18 億 7,600 万円、下水道で約 20 億 9,200 万円の増加を見込んでいる。工事費用の多くは企業債という借金で賄う予定である。企業債の利息の状況にも注視する必要があるが、利益を確保できる見込みである。
9	・現在、収支はどうなっているのか。 ・値上げの原因は何か。	・現状値上げをしなければ、水道事業では、令和 8 年度に、下水道事業は、令和 7 年度に赤字になる見込みである。 ・人口の減少や節水機器の普及などによる水需要の減少による料金収入の減少、材料費や人件費の上昇による工事費の増加が、主な値上げの原因である。
10	・皮肉な現象だが、私の家も節水型の機器を使用している。節水しても料金が値上げになるなら、矛盾を感じる。 ・耐震管への入れ替えはどの程度すすんでいるか。	・地方公営企業法の適用をうけるため、独立採算制を原則としている。事業運営は、水道料金で賄うことを基本としているため、料金収入が減少すると改定が必要となる。国に対しては、事業費における補助の拡充を要望しているところである。 ・水道については、口径の大きい管路で約 70%、管路全体で約 40%が耐震性を有している。下水道についてはおおむね耐震性が確認されている。
11	・近隣市も値上げしているのか。	・近隣市も値上げ改定しているところもある。
12	・化学物質が水道水に混入している報道があるが、豊中市はどうか。	・水質検査を、計画的に行い水道水の安全性を確認している。昨今、問題になっている有機フッ素化合物の PFOS、PFOA については 3 か月に 1 回検査をし、自己水、受水（企業団水）ともに、安全性の確認を行っている。

13	・豊中市の設備の耐震化はどのくらい進んでいるか。建物だけ耐震化しても、設備自身の耐震化が必要なのではないか。	・水道では、全ての配水場で、耐震性がある。下水道においても、全てのポンプ場や庄内下水処理場で、耐震性がある。原田処理場においては、大阪府・兵庫県が耐震化を進めているところ。
14	・樹木等の散水のため使用量が多いが、下水道使用料への配慮はないのか ・千里中央辺りでかなり大きい管を埋設工事していたが、工事の内容は。	・一般的に水道の使用水量が下水道使用量となるため、一部が樹木への散水でも配慮はない ・大阪広域水道企業団が千里浄水池の北側から寺内配水場までの送水管を二重化する工事を行っていた。送水管を2本にすることでどちらかに不具合があった場合にも、安定的に対応できるようにしている。